

---

# ホタルニュースレタ

日本ホタルの会 2017/2 第 73 号

---

## 参考文献

- 1) 財団法人日本野鳥の会. 1984. 横浜自然観察の森基本計画報告書. 横浜市緑政局.
- 2) 藤田薰. 1998. カワニナ生息状況調査. 横浜自然観察の森調査報告(3):4-8.
- 3) 松田久司・吉南幸弘・東陽一・藤田剛・藤田薰. 2008. 横浜自然観察の森における水生ホタル類成虫2種の21年間の発生数変化. 神奈川自然誌資料(29):143-149.
- 4) 掛下尚一郎・中里幹久. 2016. 水生ホタル類成虫の発生数調査(2015年度). 横浜自然観察の森調査報告21:32-37.
- 5) 横浜自然観察の森ウェブサイト

<http://www.wbsj.org/sanctuary/yokohama/>

## 2016年度 日本ホタルの会シンポジウム報告

第23回テーマ 『生物多様性と環境の保全』

日本ホタルの会理事 宇田川弘康

日本ホタルの会シンポジウムは、ホタルや身近な自然環境について皆さんと意見交換を行うため、毎年1回開催しています。

23回目となる今回のシンポジウムは、2016年12月10日に「生物多様性と環境の保全」をテーマとして開催しました。

はじめに、外来生物やダニ学がご専門の国立環境研究所五箇公一先生から、クワガタとそれにつくダニの関係など具体的な事例をあげて『生物の多様性と環境の保全』について、わかりやすく、たくさんユーモアをまじえた基調講演をしていただきました。

日本ホタルの会渋江桂子理事からは『ホタルをシンボルとした生物多様性保全と市民活動』の講演で、「ホタルを守ることを契機に、良好な在来地域生態系を残し、他の多くの生物も戻そう」とするホタルの保全活動を





提起。続いて、東京ホタル会議議長でもある日本ホタルの会鈴木浩文副会長からは生態的・遺伝的な多様性や固有性を考慮した『野外におけるゲンジボタル再生の具体的な方策案』について講演をしていただきました。

その後、現在の環境保全の考え方や野外におけるゲンジボタルの再生活動のありかたについて、参加者の皆さんと活発な議論を行いました。

最後に、この場をお借りして、今回の場所を提供していただいた工学院大学の御協力と参加者の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。



## INFORMATION

### 事務局からの お知らせ

#### 理事会・事務局会議報告

2017年1月29日理事会を開催し、談話会の開催について検討し、3月に開催することを決定しました。また、安曇野市への講師派遣の件及び2017年度会費納入依頼に合わせ会員継続の意思確認を行うことについて協議し、講師派遣では、地元で活動する人の参画を求める事、会員意思確認の件では、その方向で検討することを決定しました。

ホタルのニュースレター（第73号）

2017年2月25日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 本多 和彦

〒239-0824 神奈川県横須賀市西浦賀4-11-2-404本多方  
(日本ホタルの会事務局)

e-mail : mail@nihon-hotaru.com

URL : <http://www.nihon-hotaru.com>

Facebook : <http://on.fb.me/1DONDgN>

印刷 青森コロニー印刷 東京都中野区江原町2-6-2  
TEL : 03-5996-2761